

## わが署の地域活動について

五城目営林署 業務課 田村 喜信

はじめに

地域振興への寄与は国有林野事業実行指針の重要な柱の一つになっており、森林に対する社会的要請も多様化、高度化している情勢の中で、国有林への世論は非常に厳しいものがあります。

このような現状の中で当署としては、平成6年度に構築した業務情報ネットワークをベースに、各人それぞれ創意工夫を凝らしたなかで、地域住民への森林・林業のPRにも務め、国有林野事業の運営に対する理解を深めて貰うと共に、地域振興に積極的に寄与しているところです。

今回の発表は、こうした地域との関わりについてスライドで紹介します。

### 1. 森林資料館「特別展」のとりくみ

当署の所在する五城目町は、清流の馬場目川を本流に、その森林面積は17,800haにおよび、古くから造林意欲が盛んでスギの美林が延々と連なっているのが目につきます。

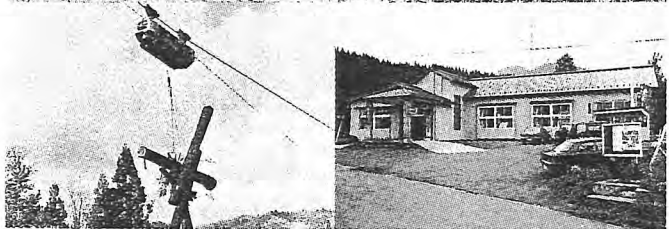
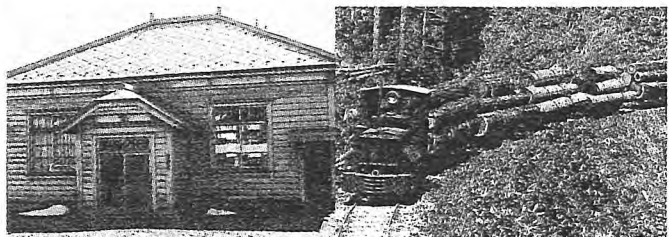
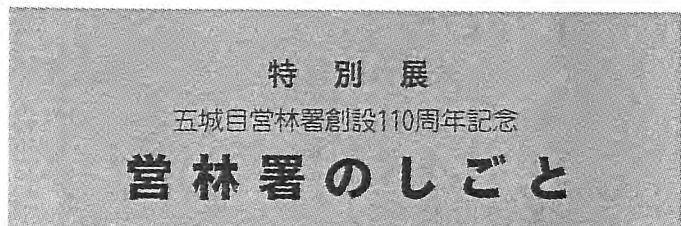
このような豊かな森林資源は、遙かな時代から利用され製材工場はもとより和家具、建具、桶樽やこれに関連した鍛冶産業等、職人町として繁盛するようになったと伝えられております。

この五城目町の今昔を一堂に納めたのが森林資料館の「五城目城」であります。

#### (1) 出展に至る経緯

五城目町と営林署は毎年行政についての懇談会を実施し、要望事項等の解決に当たっておりますが、その1項目に、森林資料館に一定期間だけ展示する「特別展示室」があるため、平成8年8月から11月までの4ヵ月間、営林署関係の展示をしたらどうかとの話題が出ました。

しかし、古い史料や器材はその都度廃棄されているので一瞬躊躇しましたが、広く住民に国有林のことを知ってもらうチャンスであり、展示



旧庁舎	森林鉄道
今の集材	現庁舎

平成8年8月1日～11月30日

森林資料館 五城目城

の中身は後から考えることにして引き受けることにしました。

## (2) 特別展の取り組みと出展内容

森林資料館は五城目町の運営であります。町から委嘱された森林資料館運営委員の審議を経て具体化されるので、専門部会には営林署からも加わり連携したとりくみをする必要がありました。

まず、プロジェクトチームを作ることから始まり、職員からアイデアを募ったり、仁別森林博物館、河辺町歴史資料館などを参考にさせてもらい、展示品のイメージを描くことから始めました。

当署で準備できないものは秋田営林局の各課、二ツ井営林署、秋田営林署の全面のご協力をいただくことで枠組みが決まりました。

### ア、展示コーナー

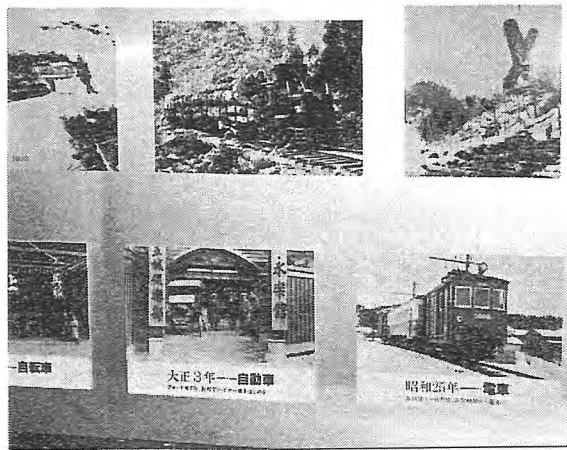
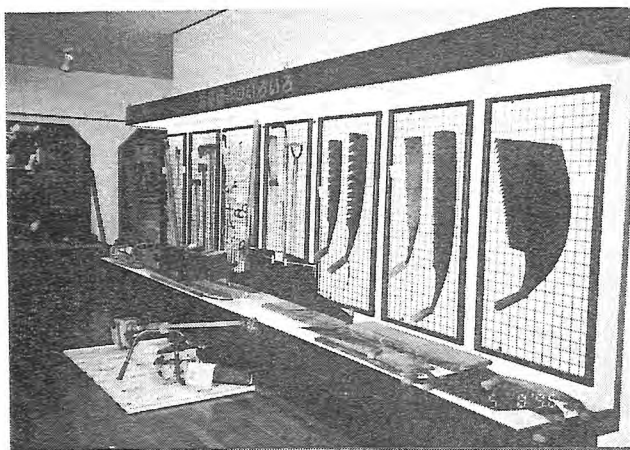
#### (ア) 五城目営林署創設110周年展

明治19年に五十目派出所として設置されてから、110年の長い歴史があります。

この間の歴史を綴った年表、マサカリからチェーンソーへ、バツ櫓からリモコン集材機へと変遷する作業方法の写真パネル、さらに、山林道具の色々を実物で展示しました。

「年輪は語る」と題し、当署自慢の100年を越える高齢級人工杉を輪切りに年号を付して展示したところ、天然杉に劣らないほどの大きさ、年輪幅の細さから木の成長に長い年月がかっていることに驚いたり、自分の出来事を年輪の中に探している人もおりました。

また、平成3年の台風19号により、当署管内でも大きな被害を受けました。被害を受けたスギを製材品にして展示したところ、表面にはっきり現れた揉み傷跡に驚いている様子でした。



(イ)、森林鉄道展です

森林鉄道敷設当時は、交通のエースとして人々に親しまれましたがトラック輸送の発達とともに、昭和46年9月我が五城目営林署を最後に秋田営林局の森林鉄道はすべて廃止になりました。今では当時のことを語る人も少なくなり小さな歴史の一コマになろうとしています。

この森林鉄道の移り変わりを紹介するため、歴史の説明、新聞の切り抜き、パネル写真等を組み合わせて展示したところ、昔を思い出して話を弾ませている人もおりました。

(ウ)、そのほかの主な展示

そのほか、森林の多面的効用を詳しく説明したり、治山治水の役割などをコラム的に描いたパネル、明治・大正時代の毅然とした制服・帯剣の服装写真など、昔なつかしいものを数々展示したので、若い人達には想像がつかなかったようです。

傍に用意したパンフレットは森林の役割を後で学ぼうと持ちかえる人が多く、足りなくなり二度も追加したことは、参観者の関心が高かったものと推察しました。

制服・帯剣制度が定められる



明治時代の服装



イ、木工品等の販売コーナー

森林資料館は物品販売をする場所ではありませんが、参観者に少しでも木材・林業に親しんでもらうことを目的に、特別にお願いして木工品の販売コーナーを設けて木製プランター、木炭、などを館内入口で販売してもらったところ関心を呼び、42,100円の売上もあり一石二鳥の効果がありました。

(3)、特別展示の考察

「営林署のしごと展」の主なものは以上であります。各方面の方々からご協力を頂き無事終了することができました。この期間中の入館者数は3,548人で、前期の「野草展」の入館者数より30%以上増えています。

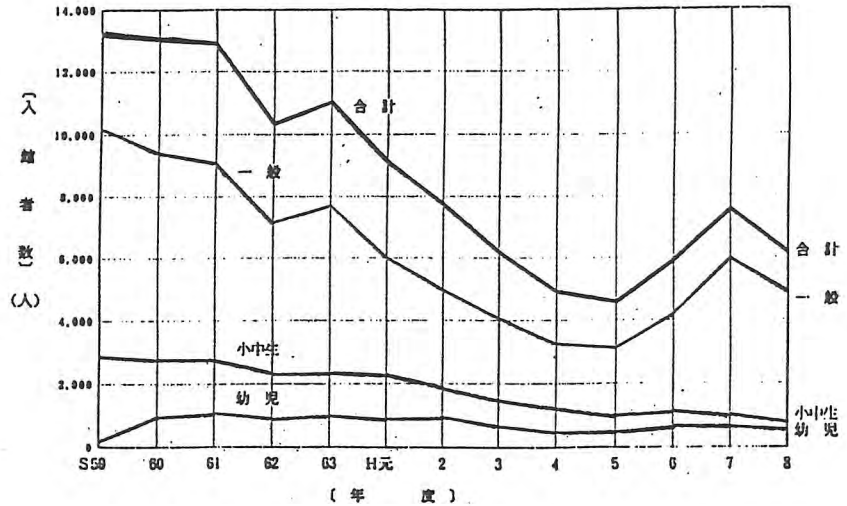
開館当初からの入館者の推移は、平成7年の特殊事情を除くと、近年は増加傾

向になってますので今回の企画は、少ない経費で署を挙げて取り組んだ成果は確実にあったものと思っております。

また、先月行われた森林資料館運営委員会会議の席上でも、委員各氏から「国有林も大変厳しい中で良く頑張ってくださいました。」と感謝と激励の言葉を頂きホットしました。

### 森林資料館（五城目城） 入館者の推移

（昭和59年～平成8年）



## 2. 年間行事としての各種イベントの取り組み

### (1) 森林ガイド事業の実施

国有林の管理経営を付託されている営林署が、日頃の考え方や、仕事の概要を地域の人々に正しく理解して頂くため、平成3年度から森林ガイド事業を年2回実施し現在も継続しています。

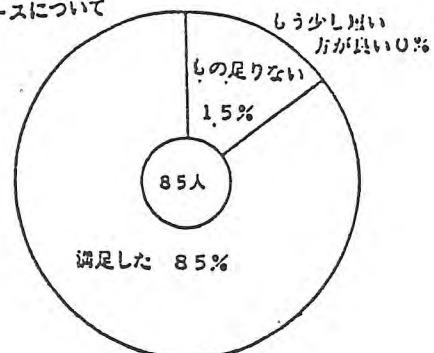
当初は参加者集めに四苦八苦したと聞いておりますが、平成5年に過去の参加者を対象にアンケート調査をし、秋田魁新報や地方新聞に掲載をお願いしたり、五城目町の名所をコースに取り入れるなどの改善をしたことや、近年のアウトドア志向による森林に対する関心度合いの高まりもあって、現在では募集定員を上回り毎回申込者の一部をお断りするほど、周辺市町村民から親しまれるまでに定着しました。

#### 参加者の動機について



#### ツアーの内容について

##### ① コースについて



回を重ねる中には、雨の日、風の日もありましたが一度も中止することなく、

参加者からは毎回礼状が届き、中には次の予約をしてくるまでの関心ぶりには、今後内容の充実を図りつつ継続していく必要性を感じています。

- (2) , 五城目町産業文化祭などへの参加  
収穫の秋に合わせ五城目町の産業文化祭が町民体育館を中心会場に、毎年開催されます。



当署でも、営林署コーナーを設け、国有林の役割と木材の効用をテーマにすえながら、分収育林などのPR、中でもスギの端材をそのまま利用して作った椅子を販売したところ生の木肌に人気があり全て売り切れました。

また、地域産業の振興に功績のあった造林保育と建具等の商工部門を対象に、秋田営林局長賞を選考し、産業文化祭褒章授与式において当署長が代行表彰しています。

毎年参加しているイベントですが、林業の町に所在する営林署として、春は全町植樹祭に始まり、国有林とのつながりを深める機会として有意義な参加です。

このほか、五城目町の最高峰馬場目岳の清掃登山には、町の一般参加者と一緒に汗を流し、ブナ天然林のこと、山の管理のことなどを語り合いながら山にゴミを持ち込まないPRをしております。

一方、五城目町立杉沢中学校の生徒達が、地元部落と営林署との関わりについて、夏休みの課題に取り上げるため当署を訪れました。森林鉄道のこと、木の効用のことなど沢山の質問に署長と課長が資料を引っ張りだしながらの説明に熱心にメモを取り、その結果は学校でグループ発表されたと聞きました。



おわりに

これまで実施した諸行事をもとに云々することは性急すぎる感じもしますが、地域との連携を密にし、その地域の行事に積極的に参加したことにより、成果としては、

- ①多くの住民、団体との対話から営林署とのつながりが一層深まった。
- ②ふだん国有林と関わらない人達が、イベントに参加したことによって森林・林業に対する関心を持ってもらった。
- ③職員の積極的な取り組みにより営林署に対する認識が高まり、「営林署は頑張っている」と称賛の言葉を聞かれるようになり、国有林のPRに効果があったなどのことが挙げられます。

しかし、地域と行事を共催していくためには、視野を広め内容を更に充実していく課題があり、職員数も少なくなっていく中で、隣接署等の協力も益々重要であると痛感しています。

今後も、地域と国有林がどう関わっていくべきかに職員一丸となって知恵をしばり、「地域に所在する国有林」から「地域に必要な国有林」へと支援を得られるよう努力していく考えであります。